

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察特殊報について

平成 30 年度病害虫発生予察特殊報第4号を発表したので送付します。

平成 30 年度病害虫発生予察特殊報第4号

- 1 病 害 虫 名 : *Paracoccus marginatus* (仮称:パパイヤコナカイガラムシ)
- 2 発 生 地 域[※] : 沖縄本島、浜比嘉島、津堅島(※ 平成 29 年 12 月時点)
- 3 発 生 作 物[※] : パパイヤ(パパイヤ科)、グアバ(フトモモ科)、オクラ、ハイビスカス(アオイ科)、キャッサバ、テイキンザクラ(トウダイグサ科)、アワユキセンダングサ(キク科)、クワ(クワ科) (※ 平成 29 年 12 月時点)

4 発生確認及び発生状況

平成 29 年9月、沖縄本島南部の施設栽培のパパイヤで、既知のコナカイガラムシ類の被害と異なり、被害の激しい株は衰弱枯死までいたる状況が確認された(図1、2)。農林水産省那覇植物防疫事務所に同定を依頼した結果、国内未発生 of *Paracoccus marginatus*(英名:papaya mealybug)と判明したことから、発生状況確認のため同事務所と合同調査を実施した結果、パパイヤの他7種の植物で本種が確認され、沖縄本島全域、浜比嘉島、津堅島で発生が確認された。

5 被害状況

一般的なコナカイガラムシ類と同様に主に葉裏に寄生するが、発生量が多いと葉柄や茎、果実にも寄生する(図3、4)。増殖は早く、寄生を受けた植物体は衰弱し、葉の黄化、落葉、すす症状とともに未展開葉では縮葉症状を呈し、生育が停止する。

6 本種の特徴と寄主植物

本種は、原産地がメキシコ及び中米諸国と考えられているコナカイガラムシ科の一種で、北米南部、アジア(台湾、中国等)、アフリカ等に分布する。パパイヤが好適な寄主植物であるが、非常に広食性である。文献上、寄生の記録のある植物はパパイヤ、キャッサバ、バンレイシ属、コーヒー、フヨウ属、アセロラ、アボカド、プルメリア、ナス等、53科に及ぶ。

7 防除対策

現在、パパイヤのコナカイガラムシ類の防除で使用可能な登録薬剤がないため、以下の防除を実施する。

- ・寄生を確認した場合は、寄生部位をすみやかに除去し、土中に埋めるか袋等に入れ密封し適切に処分する。
- ・雑草であるアワユキセンダングサにも寄生するため、ほ場ならびに施設内外の雑草等の管理も重要である。



図1. パパイヤ被害株



図2. パパイヤ果実への寄生状況



図3. グアバでの寄生状況



図4. アワユキセンダングサでの寄生状況

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス: <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>